

山梨中銀、V R活用の新事業を支援

2017/12/14 12:24 | 日本経済新聞 電子版

[山梨中央銀行](#)は仮想現実（V R）を使った新事業や情報発信を目指す企業を支援する。V Rの活用法が分からない企業のために、V Rを体験できるコンテンツを[日本ユニシス](#)と共同で製作する。

同行の金融資料館を疑似体験するコンテンツを作る。まず、ヘッドマウントディスプレイを装着し、仮想の資料館を歩きながら硬貨の裏表を当てるクイズなどを解く「貨幣史クイズコース」を用意した。V Rを身近に感じてもらうのが狙い。



仮想の資料館では吹き出しマークに視線を合わせるとクイズや音声が出る

コンテンツは2017年度中に計3本を製作する予定だ。今後は企業と共同でコンテンツを製作することも検討する。

同行は「例えば、ワイナリーをV Rで疑似体験し、テイスティングの場面でオンラインショッピングできるような企画も考えられる」（システム統括部）としている。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

